



〈サロン・あべの〉6月の出会い

木芝居II 加藤義一さん

平成21年6月20日(土)、育徳

コミュニティセンター2階研修

室で、加藤義一さんに「木芝居」、

竹上寛子さんに「オカリナ」、竹

木芝居II 加藤義一さん
チヨン チヨン チヨン
拍子木が入り、チヨンマゲ姿
の加藤さんが登場。

木芝居のは
じまり、はじ
まり・・・
紙に絵を描
くのが紙芝居、
木の板にトール
ペイントで
絵を描いてい
るので、木芝
居(きしばい)
もくしばい)
と呼んでいる。
●げんごろう
うのてんのぼ
り



楽しい 親子3代の フェスティバル

上佳那さんに「腹話術」をご披露
いただき、そして飛び入りで、加
藤良子さんの詩吟のオマケまでつ
いて「サロン・あべの」6月の出
会いは、「楽しい親子3代のフェ
スティバル」を満喫しました。

昔あるところに、げんごろう
というのんきな一人もんの男が
おった。ある日、川の岸辺を歩い
ていると太鼓が1つ落ちておっ
た。ヒョイと太鼓を拾うと、げん
ごろうは何の気もなしに、トン

トントンと打ち鳴らした。うま
いもんが食いたいぞ、てんつく
てん。かわいい嫁さんほしいぞ、
てんつくてん。勝手な言葉を並
べて、そのうち言うこともなく
なったので、げんごろうは、おら
の鼻でも高くなれ、てんつくて
ん、と言った。
すると、げんごろうの鼻がす
つと伸びた。びっくりして慌て
たけど、おらの鼻っこ低くなれ
と叩いても低くならない。太鼓
を裏返してもう1度、太鼓を叩
いて言うと、スルスルと鼻は元
に戻った。
げんごろうは、歩いていると
立派なお宮の前に出た。わいわ
いにぎやかで人がお宮参りでわ
んさかいた。そこへ器量の良い
娘がしなしなど、こっちにやつ
て来た。あの娘はどこの娘や。ま
わりの人に尋ねると長者どんの
1人娘という。何を思ったか、げ
んごろう、娘のそばにソロリと
近づいた。娘の鼻っこ高くなれ、
てんつくてん。誰にも聞こえな
い声で太鼓を叩いてささやいた。

娘の鼻は、天狗のようになった。長者どんは怒るやら、娘は泣きじゃくるやで、さあそこからは大騒ぎだ。

村1番のお医者さん呼んで薬をのませたけど、娘の鼻はそのままだった。娘の鼻を治した方に千両箱を差し上げます、長者どんは、立て札をたてた。それを見た坊さんがたくさんやってきたけど効き目がない。そこにげんごろうが屋敷の前にやってきて、こういった。高い鼻でお困りの方はございせんか。私がどんな鼻でも治しましょう。長者どんは、たのんでみようと、げんごろうを引き入れた。げんごろうの治療が始まった。娘の



加藤 穠一さん

周りを屏風で囲って、げんごろうは、なでるように太鼓を叩いて、娘の鼻っこ低くなあれ、てんつくてんと小声でささやいた。すると娘の鼻が少し低くなった。10日目の朝、娘の鼻は元の高さにおさまった。長者は喜んでお札に千両箱を3つも積み上げた。げんごろうは、そのお金で立派な屋敷を建てるとしばらくの間に遊んで暮らしているとだんだん退屈になってきた。

ある日、野原に寝転んで、げんごろうは、自分の鼻がどこまで伸びるか試したくなった。おらの鼻っこ高くなれ、てんつくてん。どこまでも、てんつくてん。雲をつき抜け、いきなり誰かに



加藤 良子さん



竹上 寛子さん

つかまえられて、痛てい。慌てて太鼓をひっくり返して、鼻っこ低くなれ、と叩いたけれど、鼻先を誰かがつかまえていて、鼻が短くなるたびに体の方が天に昇っていく。げんごろうは雲をつき抜け、天の川のほとりまで引き上げられた。げんごろうの鼻をつかんだのは、カミナリ様だった。げんごろうはカミナリ様に雨を降らせる道具やらを渡された。雲をかき集め、雨を降らせる仕事をさせた。さあ、しっかり働け。忙しい、げんごろうは、雨を降らしたり、降らせなかったりする、そのあんばいが難しすぎた。

いたずら好きのげんごろうは、



竹上 佳那さん

夕立をたつぷり降らせてやろうと雲から雲をかけ回り、そのうち足を踏み外し、真つ逆さまに落ちていった。げんごろうの落ちたところは近江の琵琶湖という日本一大きい湖だった。琵琶湖に落ちたげんごろうは鮎になって今でも泳いでいるそう。

●ももたろう

ももから生まれたももたろうが大きくなって、犬と猿と雉を伴にして、鬼ヶ島へ出かけ、見事鬼退治する。という、みなさん、よくご存知のものがたり。

(佳那さんが、ももたろうのセリフで登場)

腹話術II竹上佳那さん

お知らせ

<サロン・あべの>8月の出会い

内容:バザーの店「さろん亭」を開店
 サロングッズや、タオル、石鹸
 などお買い得の品を山積み
 して、みなさまのご来店をお待
 ちしています。

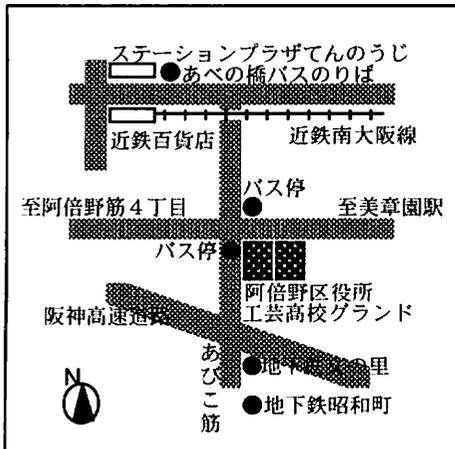
日時:8月2日(日)午後3時~6時

場所:あべのカーニバル
 なんでも市会場
 大阪市阿倍野区文の里1-1-40
 阿倍野区役所裏、工芸高校グ
 ランド

交通:地下鉄御堂筋線
 「昭和町」駅北へ10分
 地下鉄谷町線
 「文の里」駅北へ5分
 市バス・赤バス
 「阿倍野区役所」停留所前

*当日の販売のお手伝いをしてくださる
 方、品物をご提供いただける方、ご連絡
 お願いします。

問合せ先:☎06-6691-1028(富田慶子)



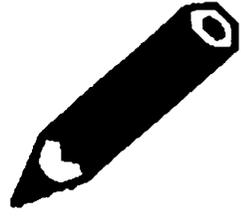
5歳のとき、おじいちゃんに
 ついていったのがきっかけで、
 腹話術の世界に。今では大人顔
 負け、プロに限りなく近いとこ
 ろまで腕を上げてきました。そ
 んな佳那さんの今日の出し物は
 自作自演で「新しい友達」

みなさんこんにちは、竹上佳
 那です。今年、私は小学校4年
 になりました。
 私の隣にいるのは新しいお友
 達のキャサリンです。楽しいこ
 とはいっぱいあるけれど、勉強
 はむずかしいという、人形学校
 の4年生です。学校の様子を替
 え歌にしました。
 4年生になったら♪♪、と
 楽しいこといろいろを歌で。
 つづいてもう1人の新しいお
 友達を紹介。
 ケロン星からやって来たケロ
 ン ケロ君です。キャサリン
 ちゃんのボーイフレンドです。
 これからもこの3人で頑張っ

ていきますのでよろしく願
 います。
 そして、妹の真由ちゃんを紹介
 して見事に演じ終えました。
 オカリナ⇨竹上寛子さん
 澄み切ったオカリナの音色をア
 ンコールも含めて5曲。
 「野に咲く花のように」
 「北の国から」
 「涙そうそう」

「いつも何度でも」
 「となりのトトロ」
 詩吟⇨加藤良子さん
 飛び入りでシブイトコロを吟
 じていただきました。
 4人4様の秀でた持ちネタで
 楽しませていただいた(サロン・
 あべの)6月の出会いでした。
 (参加者27名 山村 貴司)

57



邦子、 ..ん歳の手習い。

ヘイル・ズーカスさんの自立②

ヘイル・ズーカスさん（重度脳性マヒの障害者）は、高校卒業後、バークレー大学の公開講座で数学の授業を2年間受講しました。その単位の取得により、勉強できるといふことを証明し学部への入学を希望しました。ところが、彼には重度の言語障害があるので、外国語の修得要件を満たすことができないという理由で、入学は認められませんでしたが、しかし、高校の先生が彼の外国語修得能力を保証してくれたので、大学としては彼の入学

を考慮せざるを得なくなり、入学することができました。

その頃、ヘイルさんは手動車いすを使っていたのですが、大学が実家から近いこともあり、父親と弟の援助を受けて通学していました。また、教室の移動などで車いすを押してもらふことや授業のコピーなどは、学生にボランティアとして援助してもらったということです。テスト問題は、家でタイプをして提出して単位をとり、ヘイルさんは、1971年に大学を卒業しました。アメリカでは、障害者の大学教育は職業を得るためのリハビリテーションの一部と位置づけられていたが、職業に就くことを期待できない重度障害者が大学教育を受けることは、ヘイルさんのように、まだまだ困難な時代だったようです。

ヘイルさんは自立への強い思いを常にもっていましたでしたが、彼の自立を大きく広げてくれたのは、1971年に医療給付によって給付された電動車いすでした。それまでは必ず誰かに手動車いすを押してもらっていました。が、電動車いすを頭のヘルメットにつけた棒で操作することによって1人で自由に行動で

きるようになり、自立への大きなステップとなりました。1日の介護時間は約4時間です。経済面では、無収入あるいは低所得の障害者のための補足保障給付が月額570ドル支給され、それが彼の生活費です。介護料は、中度障害者扱いで月額800ドルが支給されているということでした。

ヘイルさんが、大学に入学した1966年は、バークレー校で障害者自立生活運動が始まった頃です。彼は、自立生活運動に当初から関わり、バークレー自立生活センターの設立メンバーでもありました。その後、自立生活運動の発展により設立された世界障害者研究所の研究員となりました。彼は障害者の生活保障と介護料の問題点について、「障害者と介護者に十分なお金が出ないということ。僕個人としては、公営の低収入者住宅に住んで家賃が安いので、十分生活していけますが、普通の家賃を支払わなければならない人は苦しいはず。カリフォルニア州は連邦レベルの最低のお金に乗せられているので、他の州に比べれば高いから楽なはずですが、それでも大変なのが事実です」と、自立生活の経済的側面の困難さについて語って

れました。

彼には部屋を共有している同居人がいて、彼の介護には直接関与していませんでしたが、緊急時には対応できるという役割を果していました。母親は近所に住んでいて、時々資料の整理をしてくれるということでした。それらの何気ない回りのサポートも彼の自立生活を支えていて、経済的には厳しい中で、彼の生活を活動的で豊かにしているような気がしました。もう20年以上も前の話になってしまいました。3年前にヘイルさんにお会いした時も、自立生活をしながら、元気に研究生活を続けておられました。(定藤邦子)

ありがとうございます。

カンパ、冷茶、お菓子、板色紙飾り、バザー用品、万華鏡部品の寄贈、また、サロングッズのお買い上げなどありがとうございました。

カスタネット、安達尚子、加藤義一、

黒羽玲子、富田萬里子、平岡太、藤井さゆり、

松森美智子、真殿香與女、横尾禮子、

その他の方々。(敬称略)

晴れのち晴れ-130-

稲垣恵雄

■母と海

梅雨が明けると一気に気温が上昇し、暑くなってくる。そうなるに誰でも汗をかき、喉がかわくので水分を取りたくなる。そして中には泳ぎたくなくて自然と足が海やプールに向いてくる者もいる。

ところで6年前の7月号の「晴れのち晴れ」に「海」というテーマで書かせてもらったが、今回はその補足だと思って読んで頂きたい。

今更言うまでもないが、漢字というものは本当によく出来ていると思う。先日、宗教誌に目を通して見ると、A師が、「海」という字を次のように分析しておられた。

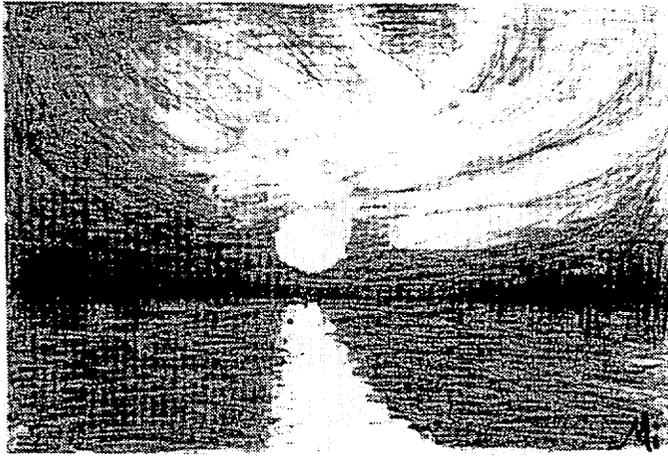
漢字の「海」には「母」という字が含まれている。「母」は「女」に「・・」がついた字だという。「・・」はいうまでもなく乳房

をかたどる象っている。そしてそのおっぱいを含み、「母」を含んで「海」という字がなりたっている。そして「うみ」は「生み」や「産み」に通じる。2つは恵みを産むものとしてつながっている。

A師のこの一文を読んで「母」と「海」がつながっているということを知った。そう言えば「母の愛は海よりも深し」という古諺を思い出す。私の母も愛情深い人だった。その母が昨年12月29日におだやかな顔で眠るようにして息を引き取った。大正元年10月生まれの96歳だったので大往生である。母は生前、山登りもよくしたが海も大好きだった。



彼岸の人



彼岸とは「向こう側の岸」であると辞書にある。仏教では「悟りの境地」をいう。彼岸には「あの世」という意味もあるかと思いい、三つの国語辞典を調べたが、意外にもそうい

う意味は無かった。とすれば、「彼岸の人」と言っても、それは死んだ人ではない。単に向こう岸にいる人であり、あるいは悟りの境地にいる人のことである。

私は父を想うとき、「彼岸の人」という言葉が思い浮かぶ。父は私に会うと嬉しそうに手もすっかりと握ってくれるのだが、やはりどこか向こう岸にいる。私の言葉が届かないし、何時間も父と向かい合い語り合っても父が何を言おうとしているのかわからない。声は聞こえるし、口から出てくる言葉は間違はなく日本語なのだが、意味がわからないのである。

母は父のきょうだいに父の近況を知らせる手紙を書いた。きょうだいたちは驚いた様子で、すぐにでも父に会いたいと言ってきたが、母はそれを難しいと考えていた。きょうだいたちには九〇を越える高齢者もいる。何時間も車に揺られて会いにくるのは体力的に厳しいし、だいいち会ったところで父には誰

好評のエッセイ

岡 知史著

知らされない
愛について

700円

ほんの少しの
神に近い部分

700円

だかわかるはずがないのである。

きょうだいたちが言えば、かならず手をとって泣き始めるだろう。それが父をひどく動揺させるのは目に見えている。何かとても悲しいことが起きているのに、自分にはそれが何だかわからない。そんな不安と恐怖が、いまの父をどんな状態にしているのか予想がつかない。母も私もそれを恐れたのである。以前、グループホームにいる父に「子どもが、まだ小さいので、あまり会いに来られなくてごめんなさい」と言ったことがある。冷静に言ったつもりだが、私の言い方が寂しそ

うだったのか、私が帰ったあと「子どもが小さくてなあ・・・」と言いながら、泣いていた父をグループホームの職員が見ている。あの程度のことでは父は悲しんでしまう。何人もの人から手を握られて泣き出されたら、それこそ本当に何がなんだかわからなくなってしまうだろう。

私が父を「彼岸の人」と考えはじめたのは、そのころだった。父は広い河の向かい側にいる。無理に河のこちら側に呼び寄せようとすれば、父は溺れて苦しむだけだ。かといって私たちが簡単に渡れる河ではない。渡ったふりをして、岸はまだまた遠くにあることに気づく。トイレに連れて行っても、そこがトイレだとはわからない。父が知っているトイレには白くて丸い便器も、明るい蛍光灯も、ウォッシュレットのボタンもありはしないのだ。それは家の外にある小さな暗い木造の小屋であり、黒っぽい色の木の床からは地中に溜められた人糞の強烈な臭いが届く。小便を受ける木箱は腐ったような木の色をしていただろう。施設のトイレは父の育った農家の便所と比べてあまりに明るく清潔であり、とても排便をするところだとは思えないのだろう。

父と会ったその日、父は早朝から一度排便しただけだった。夕方になっていよいよがまんできずに、ウロウロし始める。私や職員が何度かトイレに連れて行っても無駄だった。ついには床で漏らし始めて、そのあとはズボンを下ろして玄関に向かって放尿した。

「ああ、わしゃ、もう終わりなんじゃ」と小さな声だが、放尿しながらも父がつぶやいているのを私は聞いていた。私とは目を合わさない。適切な場所で排便しているわけではないと、はつきりわかっているのである。「ボケたら何もかもわからなくて、かえって幸せだ」と誰が言ったのだろうか、本人はわかっていのだ。ただ向こう岸にいて、こちら側のことかわからなくなつて困惑しているだけなのである。

自分が何者であるかを忘れ、自分の周りにいる人が誰かもわからなくなつたとき、人は「彼岸」という「悟りの境地」に入るのではなく、むしろ追いやられるのかもしれない。それは病に冒され衰えていく姿かもしれないが、一步一步さらに深い「彼岸」へと進む姿でもある。家族もまたその歩みに従い、未知の世界に入っていくのである。(知)

絵がうたうー

絵とうたうー

童謡♪絵はがき

- ・春 ・海
- ・夏 ・花Ⅰ
- ・秋 ・花Ⅱ
- ・冬Ⅰ ・子ども
- ・冬Ⅱ ・雨
- ・汽車 ・川
- ・5月 ・母
- ・お正月 ・虫

もらった人も、思わず、歌いたくなる、うれしい、楽しい「絵はがき」

童謡♪絵はがき

■5枚1組 ¥180

Mai スウェーデン 留学記 32

ストックホルム

スウェーデンで、首都ストックホルムと第2の都市イエテボリと比べることが多く、「どちらが好きか？」ということも話されません。日本でたとえるなら東京と大阪みたいなものでしょうか。私はどちらも訪れていますが、ストックホルムの落ち着いた雰囲気の方が好きです。

初めて首都を訪れたのは、ウプサラでの語学コースに参加したとき。毎週金曜日は参加自由のエクスカーションで、首都に行った

り、ダーラナ地方に行ったりしていました。日本からスウェーデンに入国したときは確かにストックホルム・アーランダ空港から入国しましたが、そのままウプサラに行ったので、街は見えていませんでした。この空港は、ストックホルム中心地とウプサラとの中間地点にあります。

スウェーデンに到着して、2週目。少しスウェーデン生活に慣れ、仲の良い友達もできたころ、ストックホルムに行きました。黄色の絨毯みたいな菜の花畑の間を通り抜ける時、急に景色が変わって、ストックホルム中心地へ。古い建物や新しい建物、その調和がうまくとれていること、海に囲まれている街の美しさ。ちなみに「ストックホルム」の「ホルム」というのはスウェーデン語で「島」を



ドロットニングホルム
現在の王宮です



王立美術館



ミレス・ゴーデン
彫刻家ミレスの作品が
展示されています



ヘルシンキ行きのフェリーから
見えるストックホルムの景色

意味します。この街はまさに、「島」でできた街なのです。私達は、ここで観光として、観光地を数カ所訪れ、最後はストックホルムで最も有名なガムラ・スタテン(旧市街地)で自由時間でした。この初めて訪れたとき、急に自由時間となり、午後3時から午後7時までの自由時間・・・方向音痴で1人だといつても道に迷うので、そんなに遠くにも行けず、結局はこのガムラ・スタテンで、アメリカ人のクラスメイト数人と一番仲のいいハーフ・グリークの男子とろうついでいました。でも、買い物にしてもストックホルムの中で一番物価の高いガムラ・スタテンでは散財することもできず、ウインドー・ショッピングするしかできませんでした。みんな「4時間も自由時間はいらないよ」と言いながら、散策



ストックホルム。市庁舎からガムラスタン側を臨む。手前にあるのはスウェーデンの彫刻家ミレスの作品



ガムラ・スタンにて



ガムラ・スタン内にあるガムラ・スタンで一番狭い通り



ストックホルム市内(ポストカードから)

するにも疲れ果てて、最後は流血の歴史が残る大広場でボーッと座り込んで、帰りのバスの中はみんな寝ている状態でしたが、今思えば、ガムラ・スタンはとても素敵な場所、物価は高いですが、とても素敵なカフェがたくさんあります。でも土地勘もなく、その時は何にも思いつかず、みんなで広場で休憩するくらいしか思いつかなかった私達でした。でも、この初めて訪れて、あのとき一緒に過ごした仲間との思い出が深く心に残って、いつしか、ガムラ・スタンは私の一番大好きな場所になり、ストックホルムはスウェーデンの中で2番目に好きな都市になりました。(一番好きな都市はウプサラです)

訪れるために行っていました。口帰りで訪れたこともあり、まとまった時間がとれれば2泊3日で出かけることも。ストックホルムでリフレッシュしてきて、田舎のヴェクショーに戻るということも時々していました。もちろんヴェクショーも今は嫌いではありません。でも最初に過ごしていたウプサラでの生活が強烈で、どうしてもそっちの方がさらに魅かれてしまうのです。何回もストックホルムに行くから、そのうちに自分で勝手にインターネットで調べた Bed & Breakfast の宿を見つけ、ストックホルムに行くときは必ずその B & B に行っていました。とても親切な老夫婦がアパートの1室を客室として提供してくれ、私が行くとき、いつもたつぷりの朝食を食べさせてくれ、お

やつに手作りのケーキや美味しいパンを次々に持ってきてくれるアットホームな B & B。私のお気に入りです。この2月末にスウェーデンを訪れたときも1泊だけ泊めてもらいましたが、「飛行機の到着時間は夜でしょ。夕食も食べなさい」と言ってくれ、たつぷりのスウェーデン料理を食べさせてくれました。「もっと食べなさい」と言われたのに、留学時代と比べると食べる量がかなり減ってしまい、なかなか食べれなくて、心配させてしまいました。

一番大好きな友達と過ごしたガムラ・スタン、ヴェクショーに到着して間もないころ、田舎のヴェクショー生活が嫌になって、ストックホルムに日帰りで行って市庁舎側から海を眺めていた思い出、クリスマス前、1人でストックホルムに行き、初めてクリスマスケーキを見たり、クリスマスの素朴なイルミネーションを眺めて、スウェーデンにいたことがとても嬉しくて幸せだった思い出、ヴェクショーの日本人留学生と一緒にイースター前に行った2人でストックホルムの街をくまなく歩いて、お互いの研究の資料集めをし

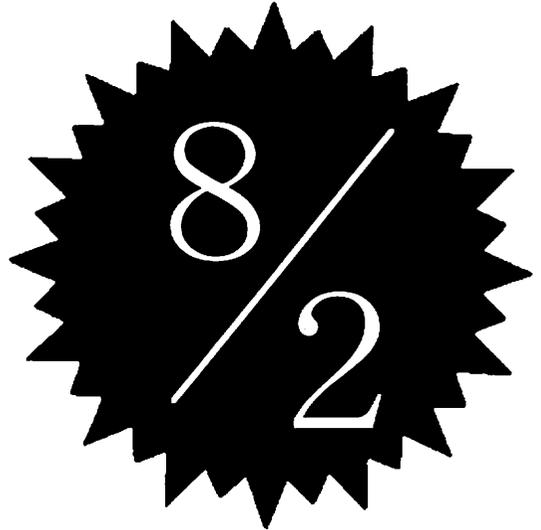
た思い出、そして、帰国前、日本でお世話になったスウェーデン語の先生の自宅を訪ねるため、ウプサラでの語学コースの先生に会うため、日本へのお土産を買うためにストックホルムに出向き、再会を果たしてきた思い出。普通に観光だけならきつとそこまで好きにならなかったかもしれない街。でもその場所には大好きな人たちがいて、いつも私を支えてくれた人がいて、大切な思い出があるかけがえない場所。

あれから帰国して、2009年2月28日、再び降り立ったスウェーデン首都・ストックホルムは2年8カ月ぶりに訪れたとは思えないくらい前と同じ姿を見せてくれました。人も風景もすべて時が止まったみたいに。美しい風景は今も変わらないままです。

スウェーデンは今、夏至祭を終え、ようやく夏を迎えました。夏といっても最近では雨ばかりだそうです。みんな夏休みに入り、海外旅行の計画を立てているという便りを聞きとただただ羨ましいばかり。私はこの夏も蒸し暑い日本からは逃れられそうもないです。冬にヨーロッパに行ったため、少しばかり我慢の日々です。

(清原 舞)

買いに
来て!



「さろん亭」の売り上げは<サロン・あべの>の活動資金になります。みんなそろって、8月2日「さろん亭」へ買いにきてください。

さろん亭

あべのカーニバル
なんでも市通り

連絡先 富田慶子 545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL/FAX 06-6691-1028

美智子のこんな話

岸田美智子

住吉区アクションプラン
高齡・障害者部会報告

今回の災害時の取り組みについての報告は、城東区にある「NPO法人大阪障害者労働センターのんきもの」事務局長・町田茂雄さん（視覚障害者）からの報告でした。「のんきもの」は、1995年1月に設立された。この時期は、阪神淡路大震災の発生時とまさに重なっていた。設立当初は、障害者の作業所兼障害者団体の事務所になっていたもので、とにかくにも仲間の障害者の安否確認や、避難所としての受け入れなどの活動に翻弄されていた。3カ月後に大阪の障害者団体が中心になって障害者救援本部が結成され、作業所

「のんきもの」として発足したばかりの事務所が、その拠点となった。作業所としての日常活動は機能停止していたが救援本部として、電話対応とその処理、全国から送られてくるカンパの会計、状況を全国に伝えるために通信の発送作業など、超多忙な日々を送った。このように立ち上げから阪神淡路大震災に巻き込まれてしまった「のんきもの」は、その中で障害者の災害時での支援体制がいかに重大かを学んでいた。災害が起こって初期の段階では、プロは当てにできない。被災者が多すぎるし、救助のプロも被災している。その中で、日頃から地域でしっかり障害者を含めたネットワークを作り、協力していることが一番必要ではないかと、学んでいた。以上のようなことがあり、現在の防災活動につながっていった。その後、街のバリアフリーチェックや、防災イベントなどを開催していった。

2008年4月、自立支援協議会の中に地域活動部会を作り、障害当事者、障害者団体、行政などが連携して当事者参加の防災訓練を実施したりしている。健常者も視覚障害者の体験をするために、アイマスクをかけた

り、車いすに乗ったりする体験も取り入れられている。避難所のバリアフリーチェックなどもしながら、福祉避難所調査行動なども行い障害者や高齡者などの人達にとって使いやすいかどうかを点検している。

「のんきもの」のメンバーが、日頃の活動でなにか困ったことがあったときは、いつでも町内会のひとと相談ができる関係ができていくということや、当事者参加の防災訓練が地域で行われていることなどは、うらやましいと思えました。今後も各地域でこのような取り組みが広がってほしいものです。

サロンの

一筆箋

一冊一〇〇枚綴 一五〇円

<サロン・あべの>の活動資金調達にご協力ください。



8月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」8月の出会い

日時：8月16日(日)午後1時30分～4時
内容：コマイナーのスヌメ
-負け犬でも勝ち犬でもなく狛犬だ-
ゲスト：マキ クニヒコさん(狛犬研究家・ロックバンド コマイナーズ)
会費：なし
場所：淀川区民センター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3
問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6394-2900
E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」8月の出会い

日時：8月22日(土)1時30分～3時30分
内容：アルハープ演奏会-世界に10台しかない新しい楽器による演奏。懐かしい曲で楽しいひと時を過ごしましょう-
お客さま：黒崎淳子氏
場所：西淀川在宅サービスセンター「ふくいく」
大阪市西淀川区千舟2-7-7
会費：なし
問い合わせ・申し込み先：
中本 ☎090-9864-9678

■「サロン「アイ」8月の出会い

日時：8月8日(土)午後1時30分～4時
内容：木について
ゲスト：西浦清輝氏-木彫職人-
会費：なし
場所：生野区在宅サービスセンター
「おかちやま」2階ボランティアルーム
大阪市生野区勝山北3-13-20

問い合わせ先：生野区社協(ボランティア・ビューロー) ☎06-6712-3101
○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
☎06-6757-8574

■「サロン・にし」8月の出会い

日時：8月8日(土)午後2時～4時
内容：視覚障害について学ぼう！
-アイマスクやロービジョン体験をする-
会費：なし
場所：西区在宅サービスセンター「にしながほり」
大阪市西区新町4-5-14
☎06-6539-8075
問い合わせ先：宮脇淳 ☎090-3949-6973

■《てくてく・すみよし》8月の出会い

日時：8月8日(土)16時～18時
内容：ビアホールで飲もう！
場所：第一生命ビル地下2階
「ニュートウキョウ」梅田・丸ビルの隣
参加費：500円
(飲食代等は飲食した者の頭割りで支払う)
申し込み締切：7月31日(金)
申し込み・問い合わせ先：
山本篤江 ☎06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」8月の出会い

日時：8月2日(日)午後1時30分～4時
内容：手作りエコ万華鏡
ゲスト：米村金治さま
場所：鶴見区民センター3階
大阪市鶴見区横堤5-3-15
会費：200円
問い合わせ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)
奥井 ☎06-6913-7070

■「サロンいたみ」8月の出会いはお休みです

<サロン・あべの>VOL.277 発行：平成21(2009)年7月18日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/oka/salon/「サロン あべの」でも検索できます